

頭の弁格助(主格)の、職格助(場所)に参りラ四・用・謙給ひハ四・用・尊・補て物語副助(婉曲)などサ変・用し

給ひハ四・用・尊・補し過・体に格助(時)、夜ク・用・ウいたうカ下二・用更カ下二・用ぬ完・終。「明日、御物忌断・体なる格助(順確)に

籠ラ四・終もる義・已べけれ接助(順確原因)ば、丑格助(結果)にラ四・用なり完・未な接助(順仮)ば悪シク・用しかり強・未な推・終む。

と格助(引用)て接助(単純)参りラ四・用・謙給ひハ四・用・尊・補ぬ完・終。

つとめて、藏人所格助(連体)の紙屋紙ナ下二・用ひナ下二・用き重ナ下二・用ね接助(単純)て、「今日係助(区別)は残り多ク・体かる心

地係助(強意)なむサ変・体する夜を格助(対象)通サ四・用して接助(単純)昔物語係助(強意)もサ四・未聞サ四・未・謙こえ明カ下二・用かさ意・終む

と格助(引用)せサ変・未し過・体を接助(逆確)、鶏格助(連体)の格助(連体)声格助(受対)にサ四・未催サ四・未され受・用て接助(単純)

なむ係助(強意)。「と格助(引用)、いみじうシク・用・ウ言ク・用多くカ四・用書きハ四・已・尊・補給ハ四・已・尊・補へ存・体、いと副めでたク・終し。

御返り格助(場所)に、いと副夜深ク・用く侍りラ変・用・丁・補ける過・体鳥格助(連体)の係助(区別)声係助(区別)は、孟嘗君

の格助(准体)に断・用や係助(疑問)。「と格助(引用)聞ヤ下二・用・謙こえ完・已たれば接助(順確偶然)、立ち返り副、「孟嘗君

嘗君格助(連体)の鶏係助(区別)は、函谷関格助(対象)を開カ四・用き接助(単純)て、三千格助(連体)の客ナリ・用わづかに

去ラ四・已れり完・終。』と格助(引用)あれラ変・已ども接助(逆確)、これ係助(区別)は逢坂格助(連体)の関断・終なり。

と格助(引用)あれラ変・已ば接助(順確原因)、「一夜格助(対象)をマ下二・用こめ接助(単純)て鳥格助(連体)の格助(手段)空音格助(手段)にラ四・終は接助(逆仮)かる副とも副よ副に逢坂

の格助(連体)関係助(区別)は許サ四・未さじ打意・終心ク・体かしク・体こク・体き関守ラ変・終・丁侍りヤ下二・終・謙。「と格助(引用)聞ヤ下二・終・謙こゆ副、また副、立ち返り副、

逢坂係助(区別)は人ヤ下二・用越ク・体えク・体やすク・体き関断・已な接助(順確原因)ればカ四・未鳴カ四・未かぬ打・体に格助(時)も係助(同趣)

開カ下二・用け接助(単純)て待タ四・終つ格助(引用)と格助(引用)か係助(疑問)と格助(引用)ありラ変・用し過・体文格助(対象)ども格助(連体)の初格助(准体)め係助(区別)は僧都シク・用・ウの君シク・用・ウ、いみじうシク・用・ウ額

を格助(対象)副助(添加)さカ四・用つき接助(単純)て、取りラ四・用給ハ四・用・尊・補ひ完・用て過・終き後々の格助(准体)

は係助(区別)御前格助(対象)に格助(対象)、逢坂格助(連体)の歌係助(区別)はサ四・未へサ四・未さサ四・未れ受・用て接助(単純)、返

しも係助(強意)え副せサ変・未ず打・用なりラ四・用に完・用き過・終。いと副わろク・終し。

さて、その格助(連体)文係助(区別)は、殿上人副みなマ上二・用見マ上二・用て完・用し過・体は係助(感動)。

さて、その格助(連体)文係助(区別)は、殿上人副みなマ上二・用見マ上二・用て完・用し過・体は係助(感動)。

さて、その格助(連体)文係助(区別)は、殿上人副みなマ上二・用見マ上二・用て完・用し過・体は係助(感動)。

さて、その格助(連体)文係助(区別)は、殿上人副みなマ上二・用見マ上二・用て完・用し過・体は係助(感動)。

